

CS-33

地下街空間のアメニティ評価に関する研究

(株)ニュージェック 正会員 鈴木 直司
名古屋工業大学 正会員 和田かおる
名古屋工業大学 正会員 山本 幸司

1. はじめに

本研究では地下街空間を取り上げ、地下街利用者のアメニティに対する評価を把握するために、アンケート調査を行い、その結果を地域別、時間帯別、個人属性別に分析する。なお、地上の商店街を地下街に対応して「地上街」と呼ぶこととし、それぞれの空間に対するアメニティ評価結果の差異についても検討し、地下街空間における今後のアメニティのあり方を探る。

2. 地下街空間および地上街空間のアメニティ要素データの抽出とアンケート調査方法

アンケート調査に使用するアメニティ要素データを抽出する際に、まずアメニティを定義しなければならない。そこで、本研究では「アメニティ」＝「魅力」＋「活力」と定義する。この定義をもとに、アメニティ評価の対象となる要因を挙げた。

アンケート調査対象を検討するに際しては、地下街利用者から見たアメニティ評価と、地上街から見たアメニティ評価とでは、異なる結果が表れると予想されることから、地下街と地上街の利用者を区別し、分析することにした。アンケート調査実施日時は平日と休日の昼と夕に行った。地下街のアンケート調査実施場所としては、名古屋市内名駅地区のサンロード、ユニモール、テルミナ、栄地区のセントラルパーク、栄地下の5ヶ所を選んだ。また、アンケート調査方法としては、郵送方式とヒアリング方式を併用した。地上街のアンケート調査実施場所としては、名駅地区の名古屋駅周辺（JR桜通口、JR太閤通口）、栄地区のテレビ塔周辺の久屋大通りを対象とした。なお、アンケート方法としては郵送方式を採用した。

アンケート調査の分析は、①地域別、②時間帯別、③利用者全体のそれぞれに対して行うことにした。具体的には、まずピアソンの相関係数を求め、次に外的基準として「魅力」と「活力」という2項目を抽出し、それぞれの要素との関連性を分析する。次に地下街、地上街利用者のサンプル、ならびに地下街利用者の個人属性別については、それぞれ外的基準に対するピアソンの相関係数が高い項目を説明変量とする数量化理論Ⅱ類を用いて分析を行う。また、地域別、時間帯別については、それぞれ各外的基準とのピアソンの相関係数を求め、アメニティを評価する際に重要な要素と考えられる項目をさぐる。そしてアメニティに関連する各項目の平均値を求め、不満項目を明らかにし、問題点を見出す。

なお、今回の分析においては、「魅力」と「活力」とでは魅力の相関比の方が高い結果が得られたため、以下では「魅力」に関する分析結果についてのみ説明する。

3. 個人属性別による地下街利用者のアメニティ評価に対する現状分析

男女別のアメニティ評価の分析結果については、外的基準を魅力、活力とする数量化理論Ⅱ類を用いて分析する。ここでは、サンプル数の多かった女性の分析結果についてのみ説明する。

女性のアメニティ評価については、偏相関係数で比較すると「地下街の明るさ」の寄与率が最も高く、ついで「広告等の様子」、「通路の天井高」、「通路の清潔さ」、「吹き抜けの様子」の順となっている。

また、男女ともに共通する地下街のアメニティ要素は「地下街の明るさ」、「吹き抜けの様子」などの地下街独特のアメニティ要素、および「通路の天井高」、「通路の清潔さ」などの構造に関するアメニティ要素で、これらはその影響が大きいと考えられる。男性において女性と比較して違いが目立った要素は、「通路幅のゆとり」、「他のビルや駅への移動のしやすさ」など構造に関するアメニティ要素であり、一方女性においては「公園、広場の様子」、「水の豊かさ」などの快適性に関するアメニティ要素が重要な要素と考

えられる項目となった。次に、年齢別でそれぞれの偏相関係数が高いものを比較してみると、各年代ともに共通して影響する要素は「地下街の明るさ」など地下街独特のアメニティ要素である。10代～20代において他の年代と比較して目立った違いは、「公園、広場の様子」、「水の豊かさ」、「緑の豊かさ」などの快適性に関するアメニティ要素を強く意識したことである。また、30代～40代においては「閉鎖感」、「吹き抜けの様子」などの地下街独特のアメニティ要素および「通路幅のゆとり」などの構造上に関するアメニティ要素である。また、50代～においては「通路幅のゆとり」、「通路の天井高」などの構造上に関するアメニティ要素が重要な項目となった。

4. 地下街利用者全体のアメニティ評価に対する現状分析

地下街利用者全体に対するアンケート調査を統計し、上記と同様の分析を行った結果を表-1に示す。相関比は0.2752と高くはないが、以下では偏相関係数の大小によって外的基準である魅力に対する説明力を比較分析していく。この表から、偏相関係数で比較すると「地下街の明るさ」の寄与率が最も高く、ついで「広告等の様子」、「他のビルや駅などへの移動のしやすさ」、「空気の清潔度」、「水の豊かさ」、「店舗のゆとり」、「閉鎖感」の順となっている。また、「空気の清潔度」、「水の豊かさ」、「店舗のゆとり」、「閉鎖感」の項目の不満度が高いため、特にこれらの改善が求められる。

5. 地上街でのアメニティ評価に対する現状分析

地上街利用者に対するアンケート調査結果についても数量化理論Ⅱ類を適用したところ「公園、広場の様子」、「温度」、「緑の豊かさ」、「水の豊かさ」など快適性に関するアメニティ要素および「通路のきれいさ」など構造上に関するアメニティ要素が地上街のアメニティ評価に強く影響を与えていることが明らかとなった。また、すべての項目において不満度が高くなった。

6. 地下街空間と地上街空間でのアメニティ評価に対する比較分析

ここでは4.と5.に示したアメニティ評価結果を比較し、地下街空間と地上街空間との違いを分析する。

地下街においてアメニティ評価に影響する要素は「地下街の明るさ」などの地下街独特のアメニティ要素、および「広告等の様子」、「他のビルや駅への移動のしやすさ」などの構造に関するアメニティ要素であった。一方、地上街では「公園、広場の様子」、「温度」などの快適性に関するアメニティ要素および「通路の清潔さ」などの構造上に関するアメニティ要素であり、多少の差異がみられた。

7. おわりに

全体的にみると地下街の方が魅力的と答えたサンプルと地上街の方が魅力的と答えたサンプルがほぼ同数となったが、外的基準で判断すると地下街空間のアメニティ評価の方が高いことが明らかになった。

しかし、今回の分析では相関比があまり高くはないことから、今後の課題としては、改めてアメニティの定義づけ、アメニティの評価方法、ならびに評価結果をいかに施設設備に関連づけるかなどが考えられる。

表-1 数量化理論Ⅱ類結果

アイテム	カテゴリー	因子1-数量	反応数	相関係数	偏相関係数
空気の清潔度	清潔	-0.1478	91	0.2183	0.1168
	やや清潔	-0.2655	78		
	普通	0.049	266		
	やや不潔	-0.0906	197		
水の豊かさ	不潔	0.4871	80	0.1984	0.1093
	満足	-0.2507	70		
	やや満足	-0.1763	91		
	普通	-0.0862	274		
店舗のゆとり	やや不満足	0.0921	155	0.2759	0.1083
	不満足	0.3519	122		
	広い	-0.4248	59		
	やや広い	-0.3312	75		
地下街の明るさ	普通	0.0672	301	0.3814	0.263
	やや狭い	0.0127	152		
	狭い	0.222	125		
	明るい	-0.4111	325		
広告等の様子	やや明るい	-0.0765	191	0.3152	0.1642
	普通	0.6876	149		
	やや暗い	0.9517	38		
	暗い	1.0662	9		
閉鎖感	邪魔ではない	-0.2933	302	0.2471	0.1057
	やや邪魔でない	0.0304	116		
	普通	0.2451	253		
	やや邪魔	0.2104	21		
他のビルや駅などへの移動のしやすさ	邪魔	0.9319	20	0.2351	0.132
	開放的	-0.0521	84		
	やや開放的	-0.0061	73		
	普通	-0.147	337		
外的基準	やや閉鎖的	0.1705	136	0.2752	712
	閉鎖的	0.38	82		
	分りやすい	-0.3554	148		
	やや分りやすい	-0.1584	127		
魅力	普通	0.0669	165	0.2752	712
	やや分りにくい	0.2659	125		
	分りにくい	0.1934	147		
	カテゴリー	因子1-数量	反応数		
魅力	魅力を感じる	-0.7345	122	0.2752	712
	やや感じる	-0.3071	214		
	普通	0.2328	293		
	やや感じない	0.8985	48		
魅力	魅力を感じない	1.2571	35		
	カテゴリー	因子1-数量	反応数	相関比	サンプル数